

令和5年度委託研究実績報告書（兼収支決算報告書）

① 令和6年3月31日現在

国立研究開発法人物質・材料研究機構

理事長 殿

② 契約担当者	機関の所在地	
	機関名	
	部署・職名	
	氏名	
③ 研究担当者	所属部署	
	職名	
	氏名	
④ 契約番号(※)		23-
⑤ テーマ名		サブ課題__ 〇〇〇〇
⑥ 研究開発課題名(※)	〇〇の作製・制御等の〇〇基盤技術	
⑦ プロジェクト名(※)	〇〇による〇〇の創製	

当事業年度の委託研究費の支出状況等は以下の通り。

なお、研究成果の内容については、研究実施報告書又は研究業績報告書を行っている。

項目別収支決算表

(円)

	合計	直接経費					間接経費 (15%)	再委託費等
		設備備品費	材料・消耗品費	旅費	人件費・謝金	その他		
⑧ 契約額 (A)	38,755,000	30,000,000	200,000	500,000	2,000,000	1,000,000	33,700,000	5,055,000
⑨ 決算額 (B)	38,675,252	30,964,252	230,000	191,113	1,000,000	1,245,289	33,630,654	5,044,598
⑩ うち自己負担額 (B')	0	0	0	0	0	0	0	
⑪ 差引額 (C) =(A)-(B)+(B')	79,748	▲ 964,252	▲ 30,000	308,887	1,000,000	▲ 245,289	69,346	10,402
⑫ 収入額 (A')	38,755,000						33,700,000	5,055,000
⑬ 返還済額 (D)	0						0	0
⑭ 繰越額 (E)	79,748						69,346	10,402
⑮ 返還予定額 (F) =(A')-(D)-(E)	0						0	0

※前事業年度からの繰越額の支出はここに含めず、「前事業年度分」の繰越決算額(1)に入力してください。

【収入額】  
当事業年度のNIMSからの受入金額(変更契約に基づく返金がある場合は当該返金額を控除)を入力する欄となり、契約額(A)が一旦、自動反映されます。  
当事業年度のNIMSからの受入金額が契約額と一致しない場合のみ、上書き修正してください。

前事業年度に繰越額が発生している場合には、以下に支出状況等を記載のこと

⑯ 契約額 (G)	41,860,000	6,500,000	3,200,000	23,390,000	2,000,000	1,310,000	36,400,000	5,460,000
⑰ 決算額 (H)	41,745,000	6,400,000	3,300,000	22,200,000	2,000,000	2,400,000	36,300,000	5,445,000
⑱ うち自己負担額 (H')	0	0	0	0	0	0	0	
⑲ 繰越決算額 (I)	115,000	0	0	0	0	100,000	100,000	15,000
⑳ 差引額 (J) =(G)-(H)+(H')-(I)	0	100,000	▲ 100,000	1,190,000	0	▲ 1,190,000	0	0
㉑ 収入額 (G')	41,860,000						36,400,000	5,460,000
㉒ 返還済額 (K)	0						0	0
㉓ 返還予定額 (L) =(G')-(K)-(I)-(J)	0						0	0

【収入額】  
前事業年度のNIMSからの受入金額(変更契約に基づく返金がある場合は当該返金額を控除)を入力する欄となり、契約額(G)が一旦、自動反映されます。  
前事業年度のNIMSからの受入金額が契約額と一致しない場合のみ、上書き修正してください。

委託費充当額(当前期) (B)-(B')+(1)	38,790,252	30,964,252	230,000	191,113	1,000,000	1,345,289	33,730,654	5,059,598
-----------------------------	------------	------------	---------	---------	-----------	-----------	------------	-----------

⑮【大学等】に区分されている研究機関のみ、以下にご回答ください（【企業等】の研究機関は回答不要です）  
本実績報告における以下制度に係る経費支出について、チェックを入れてください（複数回答可）

- 1.PI人件費を計上・支出している     2.パイアウト経費を計上・支出している     3.いずれも計上・支出していない

⑮ 備考	【NIMSに返還すべき委託研究費以外の収入が発生した場合、備考欄に事由と金額を記載のこと(例：納入遅延金等)・未使用の納入遅延金：60,000円】	NIMS使用欄	

※契約番号、研究開発課題名及びプロジェクト名は契約書に記載されておりますので、そちらを参照の上記入してください。

No.	大項目	中項目	入力時の留意事項等
①	日付		翌事業年度に継続する契約もしくは当事業年度末に終了する契約: 当事業年度の3/31を記入してください。 当事業年度の3/31より前に終了する契約: 契約期間終了日を記入してください。 ※提出日ではありません。
②	契約担当者		契約書に記載された契約担当者(委託研究契約の契約権限をもつ研究機関側の代表者)を記入してください。
③	研究担当者		研究担当者が2名併記型の場合は、2名とも記入してください。
④	契約番号		契約書に記載された契約番号を記入してください。 ※「契約番号」は、直近のものを記入してください。契約番号が付与されていない契約は不要です。
⑤	テーマ名		契約書前文を参照の上、テーマ名を記載してください。
⑥	研究開発課題名		契約書前文を参照の上、記入してください。
⑦	プロジェクト名		契約書前文を参照の上、記入してください。なお、一部契約ではプロジェクト名の記載のないものがありますが、その場合には、「その他」と記入してください。
⑧	当事業年度分	契約額(A)	当事業年度の最終契約額(変更契約による増減反映)を入力してください。
⑨	当事業年度分	決算額(B)	当事業年度の支出金額を入力してください。直接経費の中で自己負担(使途に制限の無い資金(自己資金、寄付金等)を充当して行った執行)がある場合には、当該自己負担額分を含めて入力してください。 間接経費に自己負担額分を含めて計上することはできませんので、注意してください。 ※前事業年度からの繰越額の支出はここに含めず、「前事業年度分」の繰越決算額(I)に入力してください。 直接経費と間接経費を跨ぐ流用(相殺)はできません。
⑩	当事業年度分	うち自己負担額(B')	上記の決算額に含まれる自己負担額分を入力してください。
⑪	当事業年度分	差引額(C) $= (A) - (B) + (B')$	【自動計算】 当欄直接経費の各費目の絶対値(±)が500万円を超える場合で、かつ、直接経費総額(契約額)の50%を超える場合は、費目間流用について、NIMSの事前承認を得ているかを研究担当者に確認してください。
⑫	当事業年度分	収入額(A')	当事業年度のNIMSからの受入金額(変更契約に基づく返金がある場合は当該返金額を控除)を入力する欄となりますが、契約額(A)が一旦、自動反映されますので、当事業年度のNIMSからの受入金額が契約額と一致しない場合のみ、上書き修正してください。
⑬	当事業年度分	返還済額(D)	「返還連絡書」(経理様式5)による連絡に基づき、NIMSへ返還済の金額を入力してください。 ※当事業年度中に変更契約を締結して返金を行った場合(減額変更)は、本欄には入力せず、契約額(A)に反映してください。
⑭	当事業年度分	繰越額(E)	当事業年度分の繰越額を入力してください。 なお、企業等に区分される研究機関の場合、繰越額の上限は、10万円を上限とする直接経費に、相当する間接経費を加えた額となります。
⑮	当事業年度分	返還予定額(F) $= (A') - (B) + (B') - (D) - (E)$	【自動計算】 NIMSへの返還が必要な額です。後日、NIMSが発行する精算額通知書に沿って手続きください。
⑯	前事業年度分	契約額(G)	前事業年度の最終契約額(変更契約による増減反映)を入力してください。
⑰	前事業年度分	決算額(H)	前事業年度の支出金額(自己負担額含む)を入力してください。
⑱	前事業年度分	うち自己負担額(H')	上記の前事業年度の決算額に含まれる自己負担額分を入力してください。
⑲	前事業年度分	繰越決算額(I)	前事業年度からの繰越額で当事業年度に支出した支出金額を費目毎に区分して入力してください。 ※前事業年度からの繰越額ではなく、前事業年度からの繰越額のうち、当事業年度に支出した額ですご注意ください。
⑳	前事業年度分	差引額(J) $= (G) - (H) + (H') - (I)$	【自動計算】 当欄直接経費の各費目の絶対値(±)が500万円を超える場合で、かつ、直接経費総額(契約額)の50%を超える場合は、費目間流用について、NIMSの事前承認を得ているかを研究担当者に確認してください。
㉑	前事業年度分	収入額(G')	前事業年度のNIMSからの受入金額(変更契約に基づく返金がある場合は当該返金額を控除)を入力する欄となりますが、契約額(G)が一旦、自動反映されますので、前事業年度のNIMSからの受入金額が契約額と一致しない場合のみ、上書き修正してください。
㉒	前事業年度分	返還済額(K)	前事業年度の返還済額を入力してください。
㉓	前事業年度分	返還予定額(L) $= (G') - (H) + (H') - (I) - (K)$	【自動計算】 NIMSへの返還が必要な額です。後日、NIMSが発行する精算額通知書に沿って返還の手続きを進めてください。
㉔	委託費充当額(当+前) $(B) - (B') + (D)$		【自動計算】 当欄の金額合計は執行済みの委託研究費が否認されない限り精算額に相当します。
㉕	PI人件費/バイアウト経費計上のチェックボックス		委託研究契約上、【大学等】に区分されている機関のみ回答ください。【企業等】の機関は回答不要です。
㉖	備考		納入遅延金等、当初の研究計画にない収入が発生した場合、NIMSに速やかにご相談ください。 その上でNIMSに返還すべき収入と判断された場合、当該事由と金額を記載してください。
㉗	間接経費(率)		委託研究契約書別記1の当事業年度委託研究費の内訳に記載された間接経費率を入力してください。